

安全

須恵第二小学校に駐車場を（学園広場の確保）

学校と協議



答弁中の中嶋町長

問

第二小学校の児童数は、現在822人と、まさにマンモス校並みになっています。教職員数50人に加え、給食、コミュニティ、臨時の職員をかかえ、車の台数は60台以上となっております。学園広場に車を停めているため、子どもたちが伸び伸びと遊ぶことができない現状です。広場は子どもたちにとって

答 安河内教育長

大切な遊び場であり、また、学校運営上、健康面やその他の利用方法においても不可欠な場所ですが、駐車場が足りないのも現実です。駐車場として利用できるスペースは、校舎北側にしかないと思いますが、ここに駐車場を整備してはいかがでしょうか。見解を伺います。



駐車場として使われている学園広場



進入口が鋭角になっている校舎北側

一般質問とは、議員が町長など執行機関に対し、町の行財政全般について疑問点をだし、報告や説明を求めることです。



三角 栄重 議員

須恵第二小学校の児童数は、昨年4月に比べ37人増加しており、今後増加が予測されます。教職員数は、町職員も含め60人ほどです。現在、舗装された駐車場・学園広場の駐車スペース・体育館裏の駐

車スペースを合わせると約70台が駐車できます。日常の駐車については、台数の確保ができていますが、PTA活動や社会体育利用時、学童保育の迎いの時間帯に重なる、駐車場が不足する状態になっています。校舎北側の駐車スペースは勾配がきつく、進入口も鋭角になっているため、出入りが

困難です。駐車場として利用するためには、坂道、進入口の改良が必要となり、整備工事も簡単ではないと考えます。当面は、児童の安全を確保するため、学園広場を分離するか、すべてを駐車スペースにするか、学校側と協議しながら検討していきたいと思

防災

防災危機管理者の養成は経験で補う

問

須恵町では、昭和48年7月に、集中豪雨による大きな災害を経験しています。また、平成17年3月20日には、福岡県西方沖を震源としたマグニチュード7.0、震度6弱の地震も経験しました。近年は、過去にない想定以上の大きな規模の災害が起きており、今後も、どんな大きな災害が発生するかわかりま

せん。

本町には、農業用ため池等が44カ所ありますが、その管理等の対応および防災危機管理者の養成についてどのようにお考えか伺います。

答 安河内地域振興課長

平成26年度に、県の事業（震災対策農業水利施設整備事業）で、警戒ため池耐震診断を実施しています。



県内有数の操作技術を持つ須恵町消防団



答 満行総務課長

5年前の東日本大震災では、本町からも被災地支援に多数の職員を派遣しました。今回の熊本地震においても随時派遣しています。

避難所の運営や家屋の危険度の判定調査などに携わり、じかに見聞してきた経験が、職員

答 中嶋町長

の防災危機管理能力の養成につながっているものと考えます。町職員、消防団、さらに粕屋南部消防署には専門の職員がいますので、防災危機管理者養成の必要性はないと考えます。



猪谷 繁幸 議員

本町では、新小鳥越池と山大道池が調査対象となりましたが、耐震診断の結果、特に対策の必要がないという判定でした。

一／般／質／問

ここが聞きたい！

※質問の全文を記載しています。
※「問」については、議員が提出した通告書どおりに掲載しており、編集は行っていません。